

幼児の放送

一月十四日の午前十時十分からのラヂオの幼児の時間を御きゝ下さいましたか。

附屬幼稚園の幼児たちの聲が始めて、マイクを通して皆さんの御耳に入つたわけで御座います。新年の學校放送の初放送に、何か幼児たちの遊び聲を入れたいと考へました。カルタのよみ聲や、双六あそびの様子なごも考へて見ましたがいろいろの都合で實現がむづかしい。「遊んでゐる聲をきうしても放送したい」、こいふこみから、歌あそびこいふこみにいたしました。幼児が面白く遊びつゞけられるものでないし、興味がなくて氣のりがしない。遊びに調子づくミ聲の方はお留守になる。テレビジョンで姿があらはせるミ申分ないのでありますが、なごぶちをこぼしながらも無理にならない程度でいたしました。

リーダーに大岡さんをわづらはしました。

一、通りやんせ

一同 こゝはごこの細道ぢや

さりるの人 天神様の細道ぢや

一同 ちよこ通して下さいな

さりるの人 御用のないもの通せません

一同 この子の七つの御祝に、お札を納めに参ります

さりるの人 通りやんせ、通りやんせ、行きはよいく、

かへりはこわい、こわいながらも通るは悪い、

さあお通りなさい。

二、さくら さくら

さくら、さくら、彌生の空をば、見渡すかぎり、いざ

や、いざや、もろこもに。

F . O

三、花一もんめ

A、ふるさこまごめて、花一もんめ

B、ふるさこまごめて、花一もんめ

A、何子さんがごりたい、花一もんめ

B、何子さんがごりたい、花一もんめ

A、勝つてうれしい花一もんめ

B、負けてくやしい、花一もんめ

A、ふるさこまごめて、花一もんめ

四、だるまさん

だるまさんく〜にらみつこしませう、笑ふこぬかす

アップツブツ

五、泡吹立つた

あーぶく立つた、にえ立つた

煮えたか、さうだか、食べてみやう

あーぶくたつた、にえ立つた、

煮えたか、さうだか、食べてみやう

もう、にえた

隣りのおばさん 時計はいく時

鬼 夜中の三時

おばさんのお名前何云ふの

鬼 いゝなまへ

本當のお名前何て云ふの

鬼 柳の下の大かへる

いづれも、ふだんは五六回もつゞけて遊ぶものを時間の

都合上、大抵二度つゞで次に移るのでありますから、かわ

り目が一寸自然になりません。

郊外の遠足なごこいふ、経験を幼児も先生ももつてゐな

いので、幼児は大よろこび、先生は心配いふ事になり

ました。暮の十九日にテストに午後三時半幼稚園を出まし

た。

十一人の幼児が二臺の自動車に分乗して出かけました、

校門を出ない中から大はしやぎ、ふだん、あまり口敷をき

かない人たちも、しやべりつゞけの様子で車内はかなへの

わくやうな、さわぎ、スタヂオに入つても幼稚園の気分が

(以下六十四頁へ)

す。圓心から一センチ位はなれた場所へ、はりつけたり、さしこんだりいたします。

これを一々の幼児につくらせるのもなか／＼容易ではありませんが、各幼児には、内裏、親王をつくらせ、その他のものは數人で一組のお雛様セットを作るこいふ風にいたします。

顔なき御参考までに書いておきましたわけであります。内裏雛は畫用紙八ツ切で一つ、三官女、五人囃は十六切で一つ出来るわけであります。

上野謙二氏著「新幼児ばなし三百六十五日」の冬の巻が発行されました。誌上紹介いたします。既刊の春の巻三つゞいて上梓されます。夏・秋の巻三四巻の一部で、書名にあります通り一日一日に行届いた配當がされてますお話はずる分各方面に廣く材料がさられてあり、「國民生活の淵源、代表、記念を幼児に生かすこゝに努め」られてあります。

(厚生閣)

(五十六頁よりつゞく)

一寸もかはらない、無事に各幼児を家庭へ送りこゞけてやつミの事でくつろいだ時、あゝ今一度こんな氣のもめる時があるのかと安心したやうな、心配なやうな氣持で床につきました。その夜しばらく振りに夢を見ました。事柄はよくわからないのですが、朝髪を結ぶ鏡に眞白な自分の髪がうつつて驚いてゐるまゝころでした。歌ふこゝよりもその送迎にほんまに氣骨のおれる事おびたゞしい。

十四日の放送當日は、幼稚園からいつて幼稚園へかへるので、はじめほぎのさわぎはありませんでした。銘々にラヂオせんべいを一箱づゝいたゞいてさもうれしそゝに歸りました。

みな様の幼稚園のこども達はみんな元氣でせうか。

今年は例年よりも寒さがはげしいといふことで、風邪、シフテリア、猩紅熱、水痘など大變流行つてをります由、マスクはもとよりうがひや手を洗ふことをまめにさせたいものです。